

## 植物多様性センターの「ウグイスカグラ」

スイカズラ科ですが、ウグイスカズラではなくカグラです。日本固有種で山野の日当たりの良いところに自生。枝先の葉腋に長さ 1～2cm の細い花柄を出し、淡紅色の花を1～2 個下向きにつけます。

対生する葉の基部が広がり、対になっている葉柄の基部と合着して錨状になり、落葉後もその部分が残ることがあります。徒長枝だけにつき、通常花序枝にはつきません。徒長枝は強い剪定後などに樹形を回復しようとして生長する枝で、生長が盛んで葉で行った光合成産物の殆どを生長に使うため、花芽がつきません。この托葉状の錨は出始めの若い葉では緑で、葉の変形であると解ります。



花冠は長さ 1～2cm の漏斗状  
先は 5 裂し、裂片は平開する



徒長枝の葉の基部が錨状に  
冬芽が脇で生長する



側面から見た花冠は無毛  
ミヤマウグイスカグラは繊毛が多い



図鑑では稀に 2 個とあるが、  
センターの個体は 2 個が多い